

京都府民・市民シンポジウム開催

本年度も、京都府、市、こころのカフェ きょうととの共催で、シンポジウムを開催します。今回のテーマは「若者」です。このテーマとした理由は、日本における20代の死因の第一位が自死であること、京都は学生の街と呼ばれるように、若者が多く住んでいることの二つがあります。これまで、Sottoの電話相談窓口では20代前後の相談はそれほどありませんでした。しかしながら、昨年度から開設したメール相談窓口には、驚くほど多くの若者からの相談が届いています。窓口の特性によって、ずいぶんと相談者の属性が変わるものなのだと知らされました。そうした面でも、若者というテーマは、Sottoにとっても喫緊の課題といえます。死にたい気持ちを抱えた若者に対する関わり方について、Sottoの経験はまだまだ浅いと言わざるをえません。本シンポジウムを通して、より良い関わり方を模索する機会となることを期待しています。

例年、一般の方の参加が少ないとの反省から、今回は、少しでも多くの方に関心を持っていただくため、基調講演には、芥川賞作家の平野啓一郎氏をお迎えします。若者について考えるに際して、氏の提案する「分人主義」からは、多くの示唆をいただけることと思います。Sottoからは、龍谷大学の講師でもある野呂靖理事がパネリストとして登壇します。日頃、大学生と触れ合う中で見えてくる若者の苦悩と、Sottoの相談員として、死にたい気持ちを抱えた方と関わってきた経験をもとに、死にたい気持ちを抱える若者にとって必要な支援とはいかなるものなのかについて提言する予定です。

(代表 竹本了悟)

「京都で若者の生きづらさを考える」

日時：2014年10月26日(日) 13:00～16:30 (開場 12:30)

会場：京都産業大学むすびわざ館ホール

基調講演 平野啓一郎氏 (小説家)

コーディネーター 本橋豊氏 (京都府保険医療対策監)

パネリスト 野間俊一氏 (京都大学医学部附属病院精神神経科講師、精神科医)

石倉紘子氏 (こころのカフェ きょうと代表)

野呂靖氏 (NPO 法人京都自死・自殺相談センター理事)



死にたい気持ちを 語ることでできる場所

昨年度から始まった、死にたい気持ちを抱えて苦悩している方の居場所“おでんの会”は、今年度も京都府より助成を受けて開催しています。今年度から、奇数月はハンドマッサージと食事をする“食事の会”、偶数月には自分の助け方について当事者同士が対話する“当事者研究の会”という、2種類の会を行っています。これまで、7月に第1回、8月に第2回を開催しました。7月の“食事の会”は、7名の方が参加されました。おにぎりとお餅、チンジャオロース、フルーツポンチを皆で一緒に食べて、和気あいあいと、ほっこりする会になりました。アンケートには、「おいしかった。ひさしぶりに食事らしいものを食べる気がわき、食べられた」「本当にほっこりしました。ハンドマッサージが気持ち良く、徐々に眠気がきました。心地良かったです」「来る前はどんなとこだらうかと不安でしたが、今は来て良かったと思います」「気がねなく話せる雰囲気も良かったです」などの声をいただきました。

また、8月には“当事者研究の会”を開催し、15名の方が参加されました。初めての企画で、どのような会になるのか不安な思いもありましたが、多くの方が自分の苦悩や経験について語っていただきました。参加者からは、「初めての参加でとても勇気がいり、怖い所へ飛び込むような怖さを感じながらの参加でしたが、同じように悩んでいる人たちが沢山いることを知り、仲間がいることの安心感をおぼえました」「深刻な状況で来ましたが、たいへん楽になれました」「家族、友達には話せない様なヘビーな話をしても、受け入れてもらえるような場所があることを知りました」などといった声をいただきました。

このような参加者の声は、本音を語ることでできる場所が普段の生活にはないということを示しているのだと思います。「死にたい気持ちを語るができない」ということです。その理由は様々ですが、社会全体に「死にたい気持ちを抱えた方とどのように接したら良いのか分からない」といった、どこか腫れ物に触るような雰囲気があるからなのではないでしょうか。Sottoは、死にたい気持ちは決して特別な感情ではなく、条件さえそろえば、誰にでも起こりうる気持ちだという認識で、参加者と対等に向き合うように心がけています。

今後も参加者の声を聞きながら、より居心地の良い場になるように励みます。このような活動は、継続的に続けていくことがとても重要だと考えています。今後ともご協力のほど、よろしく願いいたします。

(居場所づくり委員長 藪野廣由)

被災地ノート ②⑨

3年という歳月



ご夫婦で仮設住宅にお住まいの方を久しぶりに、訪問した。

ご夫婦は、私たちが訪問すると、いつも笑顔で迎えてくださり、最近、仮設住宅であったことや夫婦喧嘩の顛末などを、笑いながら聞かせてくださるのだ。

懐かしい気持ちで訪問すると、出迎えて下さったのは、奥様だけであった。ご主人は、数ヶ月前にお亡くなりになったのだという。とても気さくな方で、県庁で定年まで勤め上げたことを誇りにしておられた。事件や出来事の年月日まで正確に話して下さる姿は、自分の祖父に会ったような気持ちにさせられた。

そのご主人が仮設住宅で亡くなった。

しばらく言葉もなかった。せめて、お線香だけでも上げさせてもらいたくて、お部屋に上がらせて頂いた。小さなお仏壇には、ご主人の写真が飾られていた。奥様は、毎朝小さな仏壇を綺麗に拭いては、お供えを欠かさないのだと言う。

「生きてるときに優しくできなかったから」と、どこか申し訳なさそうに遺影に目を向けると、「死んでから優しくしても、遅いのね」重ねて言われ、力なく微笑まれた奥様の小さくなった背中が印象に残っている。

また、別の仮設住宅に訪問したときのこと。

携帯電話を手にした女性から呼び止められた。携帯電話の待ち受け画面を、お孫さんの写真にしたいのだという。女性から携帯電話を受け取って、画面の設定をしていると、女性は横から画面を覗き込みながら、

「この子がお腹にいるときに、父親が津波で流されてしまってね」と、こぼされた。

「あれから3年経って、こんなに大きくなったんだね」と、目を細めて孫の成長を喜ぶ祖母の顔になると同時に、複雑な胸中がうかがえた。

携帯電話の画面のなかでは、自分の両足で立つ女の子が、こちらに笑顔を向けていた。

震災で被災した方が仮設住宅に入っている間にも、3年という歳月は過ぎ去り、たとえ復興は進まなくとも、時間だけは確実に進んでいる。

(ボランティア2期生 A.C.)

活動報告

● 7月期電話相談件数…149件（無言20件、よりそいホットライン担当63件を含む）

● 電話相談委員会

グループ研修 7月17日（木）7名

● 5月期メール相談件数…受信件数70件 送信件数66件

● メール相談委員会

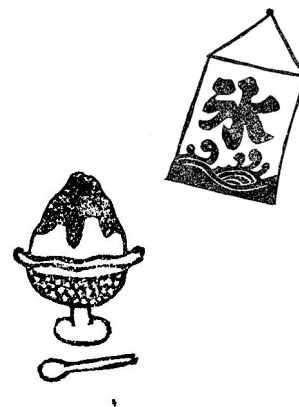
グループ研修7月15日（火）3名、31日（木）2名

● グリーフサポート委員会

委員会会議 7月9日（木）8名、研修 7月27日（日）16名

● ファンドレイジング委員会

委員会会議 7月31日（金）3名



寄付ご協力一覧（敬称略・順不同） 2014年7月1日～31日 受付分

ご協力にこころより感謝いたします

浄土真宗本願寺派	宮崎県西諸県郡・遍照寺	高木良章	岩佐一史
株式会社エクザム	鈴木善隆	野村顕祥	安本義正
葛野洋明	北氏緋紗	横尾微	木下慶心
島田芳枝	佐々木恵精	前橋市・清光寺	西田智教
伊藤秀明	佐々木了慈	藤井好正	山内浩太郎
宇野全智	楠木理奈	森直道	青木永生
岐阜市・法久寺（本田龍司）	木下祥悟	大江眞	木村吉子
八代市・大法寺（大松龍昭）	成川和行	霜尾孝紹	三ヶ本義幸
松山市・西福寺	岡京子	霜尾光江	淡路市・萬行寺
京都市・雲晴寺	後藤徹三	笠松弘隆	福島県田村郡・光善寺
呉市・宝徳寺（平原弘史）	清水道子	高橋浩文	上山大峻
広島市・万福寺（前寺哲信）	和歌山市・万福寺	荻野昭裕	野呂淑子
上越市・正福寺	福井市・勝縁寺	藤森観海	中田清吉
豊中市・専敬寺（島本泰雄）	広島市・浄寶寺	寺本ジ芳	八尾市・光専寺
武蔵野市・源正寺（上杉泰顕）	スズキリュウノスケ	米谷恵子	黒田昭信
下松市・浄蓮寺（末武一行）	隆野正信	藤澤信照	玉田義幸
矢野利生	広島県山県郡・順正寺	西原華林	高木愛都
尼崎市・西要寺	蘭純精	日高宏	門上誓明
西崎英子	南昌宏	大阪市・栄照寺	神戸市・正覚寺
宇野正憲	檉本純	田近早弓	神崎由生
西谷遼子	加藤大	永江武雄	日下正美
吉井直道	津市・妙華寺	伊佐市・覺誓寺	
大津市・福賢寺	広島市・善正寺	富山県中新川郡・浄泉寺	

Sotto コメント

暑い日が続きますね。つい、冷房にあたりすぎて、体が冷えてしまいがちです。いつも冷たいビールで一杯するところを、あえてあたたかいお茶で一汗かくと、案外、身も心も落ち着くようです。（N.Y.）

発行 2014年8月

特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター事務局
〒600-8349 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町 92
TEL 075-365-1600
URL <http://www.kyoto-jsc.jp>
E-mail so-dan@kyoto-jsc.jp